

日本福祉文化学会 中部東海ブロック通信 第 2 号

担当理事：〒425-0041 静岡県焼津市石津 751-1 平田 厚

Tel. & Fax.: 054-624-1924 携帯：090-4861-4547 Email: monogusa-tomy@theia.con.ne.jp

平成最後の第 29 回日本福祉文化学会大会大阪大会 桃山学院大学で開催

日本福祉文化学会事務局が、この 4 月に関西に移り、大変なご苦労の中、「第 29 回日本福祉文化学会大阪大会」が、10 月 27 日、28 日の 2 日間にわたり、桃山学院大学（大阪市）で開催しました。

北海道から九州各地より、多数の会員が参加し、大阪の特色を大いに盛り込んだ大会となりました。

本号では、ブロック理事の立場から、その概要を報告します。

今回の大阪大会のテーマは「語りと福祉文化」。大会のプログラムは、まず第 1 日目「基調講演：語りのなにわ文化」（講師：木津川計氏，上方芸能評論家・立命館大学名誉教授）から始まりました。

講演は、始終会場を和らげ、あっという間の 70 分ででした。

なんとも方言が人を深く包み込むことを実感しました。

読み取れたのは、人は個性を持つ。また、それぞれの土地柄も違う味わいを持つ。特色、地域性がある当たり前。言葉が地域を創る。また人をつなげている。方言は人柄土地柄を表す。

この基調講演から「福祉文化のもつ意味」を改めて考える機会となりました。

次に「シンポジウム：その人らしさが輝く語り」が 90 分展開されました。従来は、壇上に机を並べ、シンポジストが討論を展開する方法が一般的ですが、今回、パネラーは参加者と同じテーブルに着席されて、動くコーディネーターは、各パネラーに寄り添う立体的な進行をする演出は、これも「福祉文化的発想」かと感じ取れました。そして、パネラーの発言の中から、「キーワード」を浮き彫りにし、各テーブルごとにそれぞれ個々に討論を深め、そこからメインテーマ「その人らしさが輝く語り」に迫りました。

会場で、感じたことは、人は、いつでも語り合える環境が必要であることでした。

1 日目最後のプログラム「自主シンポジウム」は、4 つのテーマに沿って議論を交わしました。

- (1) 戦争をめぐる文化と暮らしを問い直す
- (2) 福祉文化と「子ども食堂」の課題と可能性
- (3) 福祉文化批評 ワークショップ～人と人が人を幸せにするために
- (4) 特別なニーズを必要とする人を取り巻くこれまでの環境と

現在、そしてこれから。「静岡福祉文化を考える会」では、今年度の活動テーマを「静岡発 福祉文化の創造と子ども支援を考える」を掲げて、「子どもを育む地域づくり その意識と実態調査」「公開型研修会」等を展開しているため、「福祉文化と子ども食堂の課題と可能性」の議論に参加しました。登壇者は、

- (1) NPO 法人として、従来の活動を展開している事例提供者
- (2) 社会福祉法人が組織・運営の中で取り組んでいる関係職員
- (3) 一般住民で取り組んでいる事例提供者

ここでは、①子ども食堂の役割……「タイプとして“ケア型”と“共生型”に分類できる」「全ての子どもを取り巻く地域環境の改善と地



域づくり」「子ども主体の課題解決に取り組むための実践」, ②子ども食堂の課題……「専門性と市民性の融合による課題解決に取り組む」「いかに、地域コミュニティで取り組めるか」「不のイメージからの脱却」, ③課題克服に向けて……「子ども主体の活動」「継続性」「協働の取り組み(行政, 社会福祉協議会)」, ④新たな子ども食堂の可能性……「福祉文化とは何かを常に考えていく」「楽しいを創造」「みんな食堂と呼び合う努力」「社会資源の有効活用」「ネットワークの構築と地域性の発揮」を事例のもとに、話し合いが深まりました。

「子ども食堂」のテーマは今後、継続的議論を続けていきたいという思いが多く寄せられていました。

懇親会では、大阪大会実行委員の皆さんのおもてなしで、約2時間、全国各地で活動されている、末松よしみつさんをゲストにお迎えして、和やかなひと時で会員相互の交流が深まりました。

2日目は、9時より「総会」が開かれ、2017年度事業報告、2019年度事業方針、災害発生時対応マニュアル等を審議承認。

会員の現状と今後に向けた取り組み(会員拡大努力)、第14回福祉文化実践学会賞発表「いしずえ」(サリドマイド薬害被害者生活支援)がありました。

「研究発表」は、(1)福祉文化と地域(3題)、(2)福祉文化と高齢者(2題)、(3)福祉文化と子ども(3題)でした。



●次期(2019年度)第30回日本福祉文化学会開催は、愛知県の中京大学です。

今から、16年前の平成14年11月30日、12月1日の2日間、静岡県裾野市民文化センターを会場に、「第13回日本福祉文化学会大会 in しずおか - 富士山麓 いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」を開催しました。いよいよ、17年ぶりに、しかも節目となります「第30回学会大会」が、中部東海ブロックの、愛知県名古屋市中京大学を会場に開催することが閉会セレモニーにおいて紹介されました。

こうした大会の開催地は、大変なご苦労の日々を送られています。

★ 次年度の「中部・東海ブロック活動」の重要な取り組みとして、第30回学会大会の開催地との連携を深める必要があります。

* 開催時期や、具体的な会場等詳細は、2~3月には明らかになるようです。

* 今後の取り組みにつきましては、情報が入り次第連絡をいたしますので、ご協力をお願いします。

●ブロック日誌拝見(08/31~11/06)

- 08/31 「学会ブロック通信第1号」発行、発送作業実施
- 09/25 新たに、中部東海ブロック会員1名加わる(全体で18名)
- 09/28 学会理事会開催(10/27)の案内あり
- 10/01 学会事務局との連絡調整
- 10/08 平成30年度前期事業報告書、平成30年度後期事業計画書提出(理事会用)
- 10/27 学会理事会出席しブロック状況報告 第29回日本福祉文化学会大阪大会開催
- 10/28 第29回日本福祉文化学会大阪大会2日目/第14回福祉文化実践学会賞発表
- 10/31 第30回大会に関して、関係方面への協力呼びかけ実施
- 11/01 第30回開催地地元関係者に、第13回静岡大会関連資料を提供
- 11/05 「学会ブロック通信第2号」編集作業実施
- 11/06 「学会ブロック通信第2号」発行/ブロック会員及び学会事務局、関係者に発送作業実施併せて、会員拡大に向けて「学会パンフレット」をブロック会員及び関係者に配布